

みんなの健康ラジオ

『耳鼻咽喉科と新型コロナウイルス』

(2021年1月14日放送)

横浜市耳鼻咽喉科医会

横浜労災病院

塩野 理

耳鼻咽喉科診療の特徴

- 耳鼻咽喉科の診察では、鼻やのどを診察するため、マスクをはずす必要がある
- 鼻やのどの診察・検査・処置ではくしゃみや咳によって飛沫が発生することがある
- 聴力検査を行う部屋は防音室のため気密性が高い
- 飛沫が発生する場合、手袋、N-95マスク、フェイスシールド、ガウンなど、重装備が必要になる
- 毎回の診察後に椅子を拭いたり、換気を良くしたりすることで次の患者さんへの感染を予防することが必要

コロナ禍における患者数

- **2019年度と2020年度との比較（日本耳鼻咽喉科医会）**
3月、4月は花粉症の季節 → コロナ以前は診療所が満員
3月：6割の診療所で昨年度の75%未満、1割が半分以下
4月：5割の診療所で昨年度の75%未満、4割は半分以下
- **横浜労災病院における比較：上半期の手術件数**
病院全体の手術件数：20%減少
耳鼻咽喉科の手術件数：30%減少

コロナ禍における疾患内容

- コロナ禍においては、耳垢、難聴、花粉症、いびきのようないわゆる命にかかわらない疾患・軽症の割合が減少
- 新型コロナウイルス感染で有名な嗅覚障害の患者さんが増加した印象はない
- 耳鼻咽喉科では、頭蓋底から鎖骨上までの悪性腫瘍も扱う
- 悪性腫瘍のような命にかかわる疾患は減少しないため、全体に占める割合は増加した
- 悪性腫瘍だとしても、軽症のうちに受診する人は少なく、重症になってから、つまり進行してから受診することになる

これからの耳鼻咽喉科診療

- **声がかすれる、のどの奥が痛い、口内炎がなかなか治らないなどの症状は、早めの受診が必要**
- **これまで通り、耳、鼻、のどに異常を感じたら耳鼻咽喉科に受診をして欲しい**
- **耳鼻咽喉科でも感染対策への意識改革が進んでいる**
- **医療者側、患者側がお互いに感染対策をしながら、耳鼻咽喉科診療を進めていくことが重要**